

No. 1110

永井文相、養護学校を視察

神奈川県・横須賀市の久里浜海岸に建ち並ぶ国立特殊教育総合研究所。4月11日、永井文部大臣はこの研究所を訪れ、久里浜養護学校の入学式に臨みました。この日、新しく9人が入学、永井文相は次のように挨拶しました。

「政府としても、できる限りの助力をする。皆さんも一生懸命頑張ってほしい。」これに応え、児童たちが歓迎の踊りを披露しました。このあと、文相は養護学校と研究所をくまなく視察、係員にするどい質問を浴びせていました。

この養護学校は昭和48年国立特殊教育総合研究所との相互協力のもとに、心身の障害が重度である幼児・児童を対象に教育を行う機関として設置されただけに、細部にわたり、教育的配慮がなされています。

しかし、日本はこのような施設や研究所がまだまだ不足しており、幅広い教育行政が望まれています。

アクアポリス沖縄へ

沖縄国際海洋博覧会のメイン・シンボル、海上都市アクアポリスが、三菱重工広島造船所で完成。

4月17日、アクアポリスのアクアホールで関係者約200名出席のもとに命名式が行なわれました。大浜海洋博協会会長のあいさつの後、渡部通産省政務次官が命名版を除幕。

アクアポリスは、日本政府の出展物で123億円をかけ、昭和48年8月から製作を開始。ローホールと呼ばれるタンクの水を調整して浮いたり沈んだりする。

長さ104m幅100m高さ32mという東京丸ビル並みの巨体アクアポリスは、風速80mでも、沈没の危険性はまずないという。海水を淡水化する装置や、汚水処理装置も設けられ未来の海上都市のモデルとして、つくられたアクアポリスは、4月18日、5隻のタグボートにひかれ、沖縄へ向け出発。沖縄本部半島の「夕陽の広場」沖合に係留され、人間と海の触れあいを音響、照明、映像技術で演出したマリノラマや海藻の森などを展示。アクアポリスは海洋博のシンボルとして訪れる人々の眼をひくことでしょう。